

【A 本校の求める子ども像・学園の一貫教育についてに関してのご質問】

Q1: 御校にはどのような性格のお子様に向いていますでしょうか。行動観察ではどのようなお子様が合格している傾向にあるか等がありますでしょうか。

Q2: 協調性が無いタイプの子は本校では受け入れて頂けないのでしょうか。

A: 本校には様々な性格の児童が学んでいます。おとなしい子、積極的な子、慎重な子、本当に様々です。しかし全体として「子どもらしい素直さを持つ子」が多いと思います。自分が周りの人から大切にされているという安心感の中で育ち、情緒的に安定していることは、児童期の成長過程の中で大切にしたい視点だと考えています。本校の入学試験に臨まれるにあたっては、「自分の思っていること、伝えたいことを言える子、自分の身の回りのことが年齢相応にできる子」であってほしいと思います。小さい声でも、言葉足らずでも特に問題はなく、子どもなりの小さな自律ができているかどうかは大事です。2番目のご質問の「協調性」についてですが、極端に協調性に乏しい場合を除き、入学試験はお子様にとって非常に緊張する場面だと思います。大人でも初めて対面する人とグループ活動を円滑に行うのは難しいはずですが、小さい子どもの場合「協力したいな」「みんなとやりたいな」と思っているだけでも行動まで移すことは非常に勇気がいることです。入学試験の行動観察では、場が和むようアイスブレイクなどのゲーム性のあるものを取り入れ、楽しい雰囲気の中でグループ活動ができるように工夫された内容となっています。毎年、入学試験の最後に教室を出る子どもたちは皆、「楽しかった!」と笑顔で教室を後にします。本校の試験時間は長いのは、楽しく活動する中で見えてくる、「その子本来の良さ」を見つけるためでもあります。

Q3: 御校に入られてから、その中でも特に伸びている（成長している）子の特徴をご教示ください。

Q4: 6年後、12年後の子ども達の成長された具体的なエピソードを教えてくださいましたら幸いです。

Q5: 成長の過程（年齢や性別）で一貫教育校として、それぞれのステージで期待したいことや応じたプログラムなどお聞かせください。

Q3～5までへの答え: 本校に入学したどの子どもたちも皆、机上の学習だけではないバリエーションに富んだ学校生活を過ごしながら、それぞれの歩みで成長していきます。伸び代が大きいと感じるのは、教科の学習においては習ったことを覚えるだけでなく、自主的に実体験に置き換えたり、さらに自分で調べたりして自らの好奇心で深めていくことができる子たちでしょうか。6年後、12年後の子どもたちですが、初等部の居心地が良かったためでしょうか、卒業、就職、結婚等の節目に多くの卒業生が母校を訪ねてきます。中高等部が学年規模が大きくなり、一人ひとりに目の行き届く学校生活であり、進路、進学指導についてもきめ細かく対応することもあるのでしょうか。やりたいこと、進みたい進路を見つけ、学びたい学部に進学しています。進学先は難関大学をはじめとして、音楽、美術等の専門性の高い大学や、海外大学等、多岐に渡っているのも大きな特徴です。本学園の教育理念は「人徳を備え、自らの力で人生を切り拓き、世界の力、社会の力となる人材の育成」です。本学園は幼稚園を基点として4つのステージがあります。その中で、初等部では「人」としてのしっかりとした土台作りに重点をおいています。「善悪の判断」や「自分の体を大切にすること」、「自ら進もうとする力」などは、人とのつながる速度や世界の広がりが増える青年期において非常に大切な力です。これらの力は机上の学習だけでは得ることはなく、自然の中で友達と遊んだり、「美しいものを美しいと感じる体験」等、実体験を通して育まれるものです。瑞々しい好奇心や柔軟な感性を学校生活を通して育てていきたいと考えています。林間学校などの宿泊行事は、人間形成を大切に学校の方針を体現しているプログラムの一つです。コロナ禍で高学年のみしか実施できていませんが、通常期、宿泊行事は卒業までに延べ23泊31日(コロナ禍明けのため今年度は16泊23日)あります。「〇〇に行って楽しかったね」で留まるのではなく、生活そのものを現地で行うことで、お友達の良いところ、気になるところも受け止め、お互いに理解しあって生活する術を身につけていきます。自分も完璧な人間ではなく、お互い様であることを理屈ではなく実体験を通して理解していくのだと思います。学園を卒業した子どもたちが結婚して各々家庭を持ってもお交流を持つ人が多いのも、本当の意味で心の底で気持ちが繋がっていることの表れではないかと思います。

【B 教育活動の特色についてのご質問】

Q6:様々な特色あるカリキュラムは、どのようにヒントを得て、考案、作成されていますか。

答え：特色ある様々なカリキュラムは、今までの教育活動の蓄積の中から導き出され、淘汰されてきたものです。また現在の社会情勢や10年、20年先の社会を見据えて、必要に応じて研究し、カリキュラムに取り入れています。

Q7:3つの柱として言語技術教育を掲げられていますが、実際には1年生では年間のうち何時間程度授業が行われるのでしょうか。また、その授業を行うことで、日常生活へ良い影響が現れているなどありましたら教えて頂けますでしょうか。

答え：言語技術の授業は1年生では年間13時間行います。最初は絵本の読み聞かせから始まり、問答ゲームや再話といったプログラムを通して、「ことば」の使い方についての正しい知識を身に付け、文章を読み取る力や、「ことば」による表現のスキルを身につけていきます。高学年では、他の教科でも一人ひとり書く力、伝える力が伸びていると感じる場面が多くあります。中高等部でも言語技術の授業が続きます。大学受験の際の小論文作成も苦にしない人が多くなっていると聞いています。

Q8:高学年の算数は、中学数学を先取りしたりしますでしょうか？

答え：特に先取りはしていません。

Q9:英語教育について時間数、先生、カリキュラムの内容について教えてください。オーストラリアのホームステイではどのくらいの費用がかかりますか？

答え：英語は低学年は週1時間、3年生以上は週2時間です。4年生からはクラスを2つに分ける二分割授業をおこなっています。指導者はイギリスの公的機関であるBritish councilより3名のネイティブの講師を招聘し、森村オリジナルのカリキュラムで行っています。海外の文化に触れながら楽しく英語を学ぶ中で、綴りと発音の関係性(phonics)を大切に、4つの技能(reading・writing・hearing・speaking)の習得をバランスよく促します。British councilの教材開発力、教員の質の高さは全世界で定評があります。オーストラリアの語学研修の費用は約43万円です。

Q10:英語、算数は4年生から2クラス分割のようですが、成績順なのでしょうか？

答え：英語に関しては単純にクラスを二分割しています。算数については、単元ごとに行われるテストによって変わります。基礎をじっくり身につけたい小クラス(10名前後)と、議論などを通して課題をさらに深めていく大クラス(30名前後)に分かれる場合もあります。

Q11：補習のようなサポートはありますか？

答え：3年生から週1日、希望者に放課後の時間を使って学習会をおこなっています。また、休み時間に質問にくる子もいますので、丁寧に納得がいくまで導きます。

Q12：幼稚園生や中高生との交流はどれくらいありますでしょうか？

答え：1年生は附属幼稚園の年長藤組との交流を定期的に行っています。自分たちで考えた出し物をしたり、学校内を案内したりします。少子化の進んだ現代において、自分より年下の相手とコミュニケーションをとる経験そのものが減っています。相手の立場に立って考えることは、自律の精神を育みます。また、幼稚園生との交流だけでなく、初等部内でも縦割りの活動を多く取り入れています。中高生との交流については、初等部在校生対象に「中高オープンスクール」、5年生対象に「先輩が語る会」を行っています。中高の本格的な部活に参加したり、中学生の生の声を聞くことで、少し先の自分の未来を想像し、次のステージへの想いを膨らませます。

【C 家庭学習についてのご質問】

Q13：長期休暇である夏休み、または普段はどの様な宿題の量や内容イメージですか？

夏休みの宿題は一定量しか出ません。全員に同じ内容、同じ量を課す宿題から、必要な内容、適切な量を、できれば自主的に設定するという自学スタイルに変化してきています。普段の宿題については、漢字の練習などが出されていますが、量はあまり多くありません。

【D 卒業後の進路・内部進学についてのご質問】

Q14：内部進学以外の方の割合や進学先を教えてください。

Q15：併設中学の外部生との学力の差を埋めるためのカリキュラム工夫（中学受験カリキュラムの取入れなど）はございますか？

Q14,15への答え：内部進学は年度によりますが、例年約90%の子どもたちが中等部へ進学しています。外部の中学へ進学する児童の進学先ですが、いわゆる難関中学をはじめとして、スポーツのために公立へ出る児童もいます。中等部からの入学者との学力差ですが、内部進学者は時間内に得点する訓練はしておりませんので、入試問題において得点する力には中学入学当初は差があります。しかし、納得できるまで学びを深めた経験や、課題へ向き合う姿勢が中等部進学後、新たな学びに生かされ、1年もすれば混ざり合っただけでその差がなくなると聞いています。中学から新しい教科が始まることや、また中学受験で入学してくる人にとっては、入学がゴールですが、初等部からの内部進学者はその感覚がありません。初等部の時から毎日コツコツと学習する習慣が身についているため、中学に行っても日常的に学習するのだそうです。ちなみに今年度東京大学の合格者は初等部出身者です。中学受験のカリキュラムの取り入れに関してですが、中学受験はどちらかといえば「知識をどれだけ覚えられているか」「正解をどれだけ正確に速く導き出せるか。」を測るものです。本校の授業では、知識をどれだけ多く覚えているか、ということよりも「知識をどのように組み合わせ活用するか」や、「正解は本当に一つなのか、他にも正解の導き出し方はあるのか。」等の思考力、応用力に重きをおいています。もちろん、6年生では中等部から入学してくる子どもたちが、どんな試験を経て入学してくるのかを知り、中学進学への意識を高めてもらうために、授業の中で森村学園中等部の過去の入学試験問題を解いてみることも行っています。入試問題の中には、小学校の学びの総合力を求める発展的なものもありますが、入学試験では合否を判定するための得点差を生じさせることも必要であるため、問題の中には中学以降に不要な部分も少なくありません。

【E 放課後の過ごし方・学童について】

Q16：提携していらっしゃる学童はありますか。また、長津田からの通学は子供の足では遠いでしょうか。

Q17：共働きのご家庭のお子さんは、学校終了後の学童はどの辺りに行かれてるのか、また、習い事など含めどのように過ごされている方が多いか、傾向を教えてください。

Q18：5年生からクラブ活動がありますが、1～4年生は放課後どのように過ごしていますか？森村の森はどのような時間帯に利用できるのでしょうか？

Q19：民間学童への立寄可否について。

Q20：低学年の放課後遊びはいつぐらいから利用できるのか。

Q16～20への答え：現在、お仕事を持たれているお母様がクラスの約半数はいらっしゃる状況です。本校には併設の学童はありませんので、必要に応じてそれぞれのご家庭のニーズにあった民間の学童を利用していらっしゃいます。多くは「自宅の近くの学童保育」「保護者の職場に近い学童保育」です。悪天候の場合や、緊急で下校しなければならなくなった時、なるべく学校としては速く安全にご自宅に帰宅していただきたいと考えています。民間の場合、時間やプログラム、食事等、ケアが充実しているところも多く、つくし野駅までお迎えのバスが来ている学童保育もあります。1年生から4年生までの放課後の過ごし方ですが、1、2年生は2時50分まで放課後遊びに参加する児童も多くいます。3年生は通常3時30分まで、4年生以上は3時45分ごろまで学校で放課後遊ぶことができます。多くの子どもたちが、それぞれ好きな場所で放課後を過ごしています。森遊びについては低学年は担任と一緒に授業時に学習の場として利用することがあります。3年生は休み時間等決められた時間帯に森で自由に遊ぶことができます。長津田駅からの徒歩通学は、長津田駅周辺にお住まいの場合を除き初等部では許可しておりません。（長津田駅から学園までの道にガードレールがなく、車の交通量が多いため安全が確保できないという理由から。中高生は利用可）Q20については、1年生は2学期が始まってから放課後遊び(14時50分頃まで)を行っています。

【F 学校生活に関するその他のご質問について】

Q21：スマホや携帯、GPSの携行はOKでしょうか

答え：現在、KIDS携帯、GPS機器の携行は届出制で許可しています。校門通過情報をキャッチできる端末の貸し出しも可能です。制服のまま習い事や塾に行くことは認められていません。

Q22：制服のまま習い事や塾に行くことは許可されていますか

答え：制服のまま習い事に行くこと(学童保育は除く)は、学校は原則として認めていませんが、保護者の責任下での対応をお願いしています。

Q23：親の来校頻度はどの程度でしょうか

答え：学年懇談会をはじめとして学級懇談会が年に2～3回、面談は年に1～2回程度行います。参観日は年間5回程度設定し、その中で都合の良い日程に参観できるように配慮しています。主な行事についてはなるべく休日に行くなど、お子様の成長をご家族の方に見届けていただけるようにしています。(音楽会のみ平日の午後)

Q24：4月入学時の集団登下校について。

答え：集団登下校は実施しておりません。登下校の方面別にグルーピングしており、年1回顔合わせの時間があります。通学時、駅ごとに電車の乗車車両が決められていますので、同じ駅を利用している子どもたちどうしはお互いがわかるようになっています。1・2年生は下校時は担任と担任助手がつくし野駅まで毎日送りに行っています。

Q25：送迎について決まりはありますか。車・タクシー送迎の可否なども知りたいです。

答え：入学後、10日間の送迎をお願いします。その後は一人で通うこととなりますが、子どもによって乗り換え回数が多かったり、遠方から通っていたりそれぞれ事情が異なります。送迎の終わりは、それぞれのご家庭でご判断ください。なお、車、タクシーでの送迎は認められていません。

Q26：朝の始業前の時間に外遊びはできますか？

答え：制服から体操服に着替え、提出物や始業準備等の朝の支度が済んだ人から遊べます。

Q27：一年生の生徒さんは登校時最寄駅に何時ごろに到着されていますか？

答え：下校と異なり、全学年の登校時間が一定の時間に集中するため、安全上の観点から詳細な時間についてホームページ上ではお伝えできませんので、今後に行われます私学フェアや学校説明会等で直接教職員にお尋ねください。

Q28：学園内にいじめが発生する場合の対応の仕方を教えて頂けると幸いです。

答え：人も動物も集団になれば大なり小なりの争い事や力関係が生まれます。いじめがない学校というのは存在しない、という意識を常日頃より持っていなければならないと思います。「いじめが起こらないような集団作り」と「起こった場合にどう対応するか」の両方が大切です。本校ではいじめは「相手が嫌だと感じることを継続して行うこと。」と定義しています。一般的に小学生の子どもたちは、どのような行為がいじめにあたるのか、具体的なイメージを持たずにいるため、知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまう、と言われる。ちょっとしたからかいや何気ない一言や自分勝手な行動がそれにあたります。本校にはカウンセラーがおり、担任とは異なる立場で子どもたちの中に入り、対話を通して友だちとの良い関係の築き方や自分自身ときちんと向き合うことの大切さを促していきます。児童のちょっとした悩み事の相談や、保護者の方の育児相談も可能です。また、本校は幅広い専科制を採用しているため、一人の児童に10人以上の教職員が関わっており、日々の子どもの様子について情報を共有しています。そして、子どもと教員の距離関係も良い意味で近いことも、いじめやクラスの問題が起きた時に早い解決につながると考えています。全校児童に「いじめに関するアンケート」を無記名で行っているほか、校長室の前には「メンタルボックス」という「相談箱」が置かれ、誰でも「今自分が困っていること」を書き込んでSOSを求められるようになっています。

Q29：災害時にはどのような対応をされていますか？

答え：まず地震についての対応ですが、校舎は耐震補強工事を行っており、安全です。災害時の備蓄品として児童一人につき1週間分の食料を備えています。学校全体の災害用の設備として、非常用電源をはじめとしてプールの水を飲料水に変換できる機器なども備えています。各種防災訓練も定期的に行ない、教職員は子どもたちの安全の確保に努めています。連絡手段は通常よりメールシステム(ミマモルメ)を使用しており、保護者への迅速な情報の提供を行なっています。

Q30：都内からの通学実績や都内からの通学児童の放課後の過ごし方を伺いたいです

答え：全校児童の約25%は都内23区からの通学者です。交通インフラの発達によって、都内からの所要時間がこの十数年で格段に短くなっていることも理由の一つなのでしょう。放課後は、各ご家庭の方針にもよりますが、下校時刻ギリギリまで放課後の時間を遊ぶ児童も多くいます。学校ではお友だちとたくさん遊んで、帰宅したら習い事や宿題、お家のお手伝いをする、というようにメリハリのある時間の使い方をしている児童が多いと思います。

【G 入学試験に関するご質問】

Q31：入学試験における生まれ月への配慮はありますか

答え：願書を締め切り後、誕生日順(遅く生まれた人が最初)に並べ直し、受験番号を振ります。試験当日は、同じグループの子どもたちは、月齢にあまり差がない集団となります。